

中学2年地域創生講話 「地域のつながい」から学びを[未来創造P]

2年生は、「やまがたの未来をデザイン（よりよく）する」という学年テーマのもと、1年生で学んだデザイン思考を活用し、社会や地域のために自分たちができることを考え、行動する力を養うために年間を通じて探究活動に取り組みます。

2年生の未来創造プロジェクトのスタートは、地域に深く根ざして活躍している方を講師にお招きし、3回に渡り地域創生講話を開催しました。第1回は、地域振興サポート会社まよひが企画代表の佐藤恒平さんに、朝日町のまちおこしについてお話しいただきました。桃色ウサビのキャラクターによる広報活動やゲストハウスの運営などを楽しく知ることができ、地域を活性化させるためのマインドについて学びました。第2回は、山形まるつね果樹園の結城こずえさんに農業支援についてお話しいただきました。結城さんは、ニューヨークの国連本部にて、国連女性の地位委員会でスピーチの経験をお持ちで、また、やまがた農業女子ネットワークの発起人でもあります。何事も前向きに行動してみるものの大切さを学びました。第3回は、社会福祉士の柴田邦昭さんに、私たちの生活と福祉についてお話しいただきました。高齢者と関わってきた社会福祉士の方の動画の中で「一番厳しい人を見捨てる社会は、みんなにとって厳しい社会だ。誰一人見捨てず、あなたを気にしている人がここにいますというメッセージを送り続けていきたい。」という言葉はとても心に残りました。

3回に渡る地域創生講話を皮切りに、2年生の未来創造プロジェクトでは、社会とのつながりの大切さや山形への愛着を育み、広い視野で人々と力を合わせて共に生きる社会をつくらうとする人材育成を目指して教育活動を展開していきます。



この講話を聴いて、地域振興の意味について考えた。「地域振興は、その地域に住む人々が楽しさや幸せを感じてもらえるようにすること」だということを知り、活動をする中でどのように思ってもらえるかが大切なのだと思う。また、自分が望む未来を一人ひとりが考えることで、さらなる地域活性化につながると思った。この講話で、自分の未来創造プロジェクトの方向性が見えてきた気がした。

(第1回地域創生講話生徒感想)

自分の努力や頑張りが農作物などの味に出て、お客さんの反応として目に見えてくるというのは、すごくやりがいを感じる仕事だなと思いました。今回学んだ「Action trumps everything（行動はすべてに勝る）」ということこれから探究活動で大切にしたいなと思いました。

(第2回地域創生講話生徒感想)



これからの学校生活で、柴田さんから教えてもらった「ソーシャルワークの4つの原則①認めてあげる②否定しないで聞く③確認する④これからどうしたらいいのかを一緒に考える」ということをしていきたいです。社会福祉士についても、もっと詳しくなって、将来の選択肢として自分の視野を広げます。

(第3回地域創生講話生徒感想)

